

大分空港を起点としたMaaS検討部会 第2回資料

～大分空港を起点とした**MaaS**の方向性について～

令和3年11月26日(金)

大分空港を起点としたMaaS導入の方向性について

- 大分空港を起点としたMaaSの導入を検討するに当たっては、**空港直行アクセスのみではなく、国東、別府、大分等のエリアにおける利便性向上も含めて**、それぞれのモードごとに取組内容を検討することが必要。

☐ 大分空港を起点とした複数の公共交通を最適に組み合わせ、検索・予約・決済までを一括で行うサービスの構築。

☐ 交通機関だけでなく観光施設等の情報やサービスとの連携も見据えた取組も検討。



☐ 空港アクセスバス

(一例)

- ①いつでもどこでもアプリを使って乗車したい便のチケット購入可能
- ②スマホの画面提示により降車が可能
- ③混雑状況や購入状況等が閲覧可能

☐ 路線バス

(一例)

- ①時間内乗り放題のタイムチケットの導入
- ②スマホ画面（アクティブ状態）を提示することで、その間自由に乗降が可能
- ③おすすめの観光施設情報等と連携した情報発信や割引クーポンの付与等

☐ タクシー

(一例)

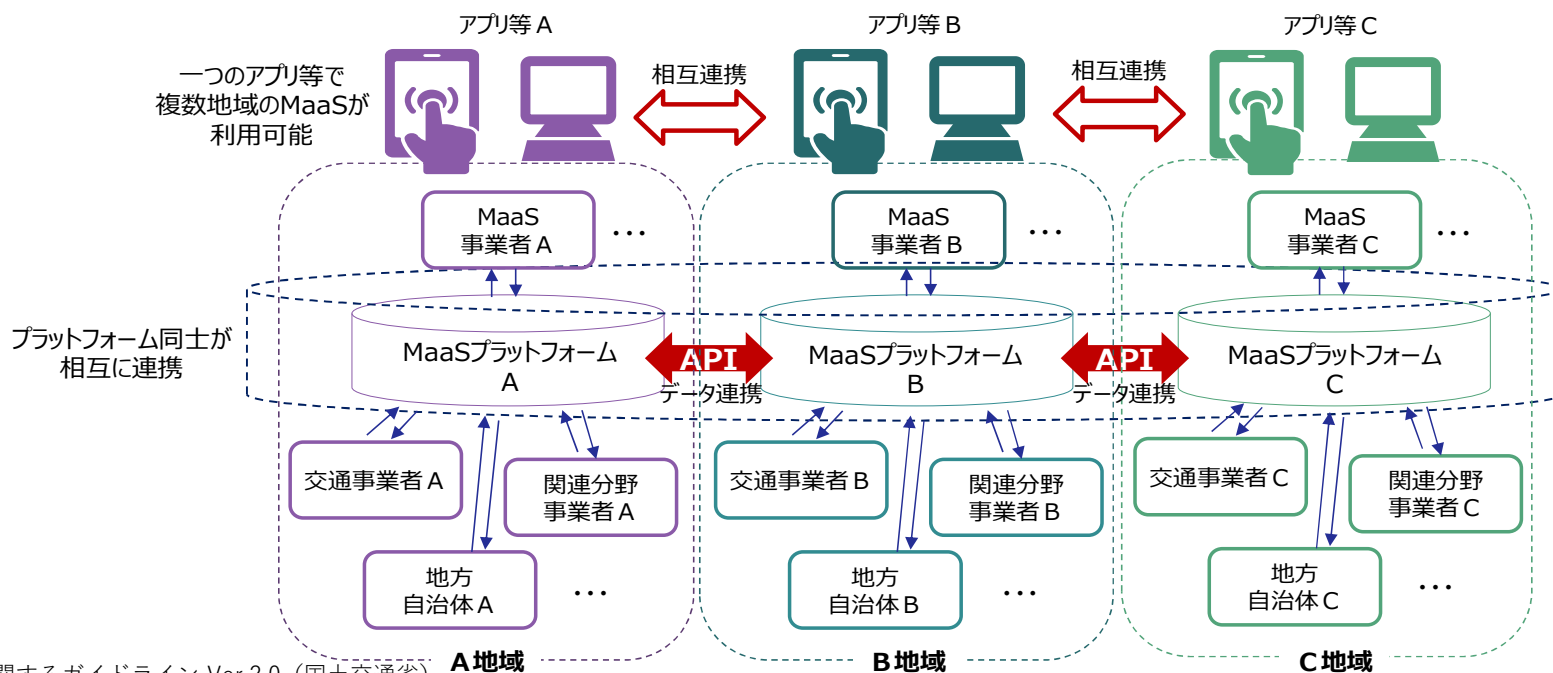
- ①ワンアプリで、配車予約から決済まで一括で利用可能

空港を起点としたMaaS導入に当たり必要な視点

- 大分空港は、本県唯一の空の玄関口であり、直行便のある地域に限らず、乗継利用も含めて、**全国・世界各地から、様々な属性の者が利用**する重要な拠点。
- そのため、空港を起点としたMaaSの導入に当たっては、**様々な地域からの者が利用するという特色を前提**として、利便性の高いMaaSを目指すことが必要。

【参考：国土交通省】 MaaSにおけるAPI連携の必要性について

- 民間事業者等によるプラットフォームの構築が進み始めていることを踏まえ、既存又は今後構築されるプラットフォームがAPI等で連携されることが望ましく、MaaSアプリ等についても、各アプリ等がAPI等で連携し、一つのアプリ等で複数のアプリ等を利用できる状態になることが望ましい。
(【国土交通省】MaaS関連データの連携に関するガイドライン Ver.2.0から一部抜粋)
- 国においても、APIを活用した複数アプリの利用が推奨されている。

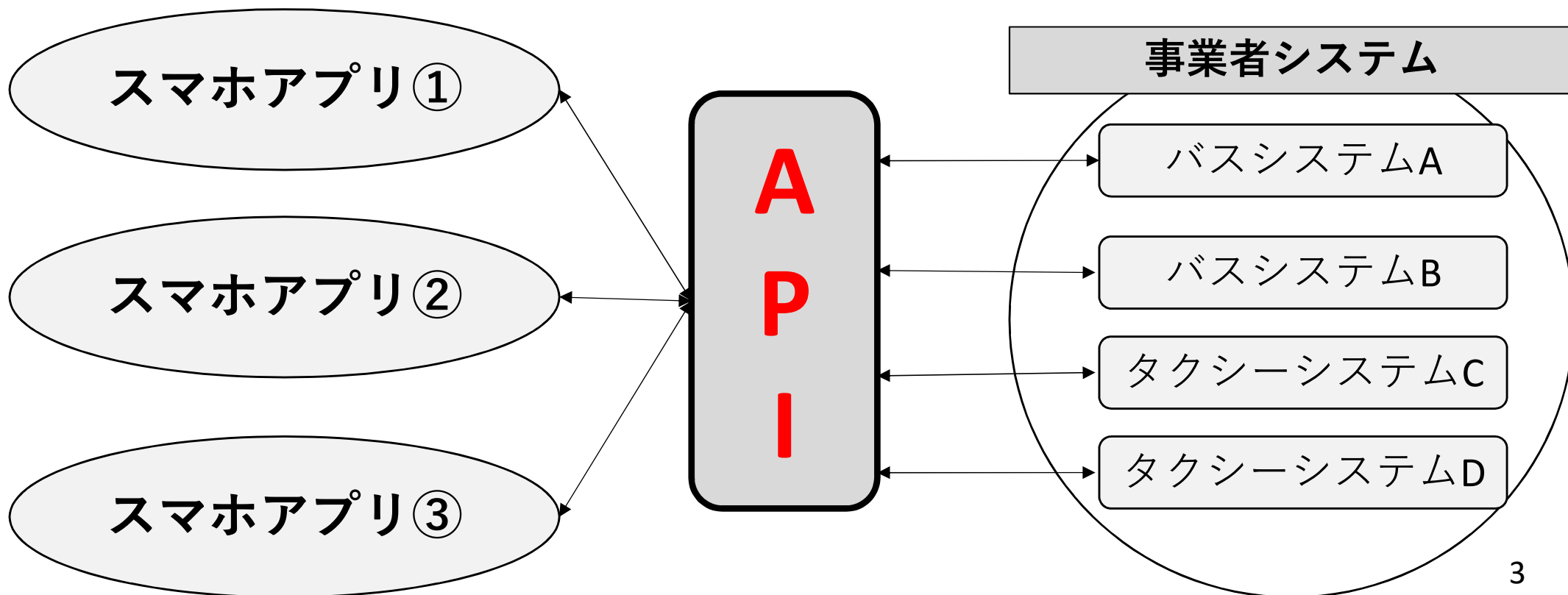


Application Programming Interface

(アプリケーション・プログラミング・インターフェイス)

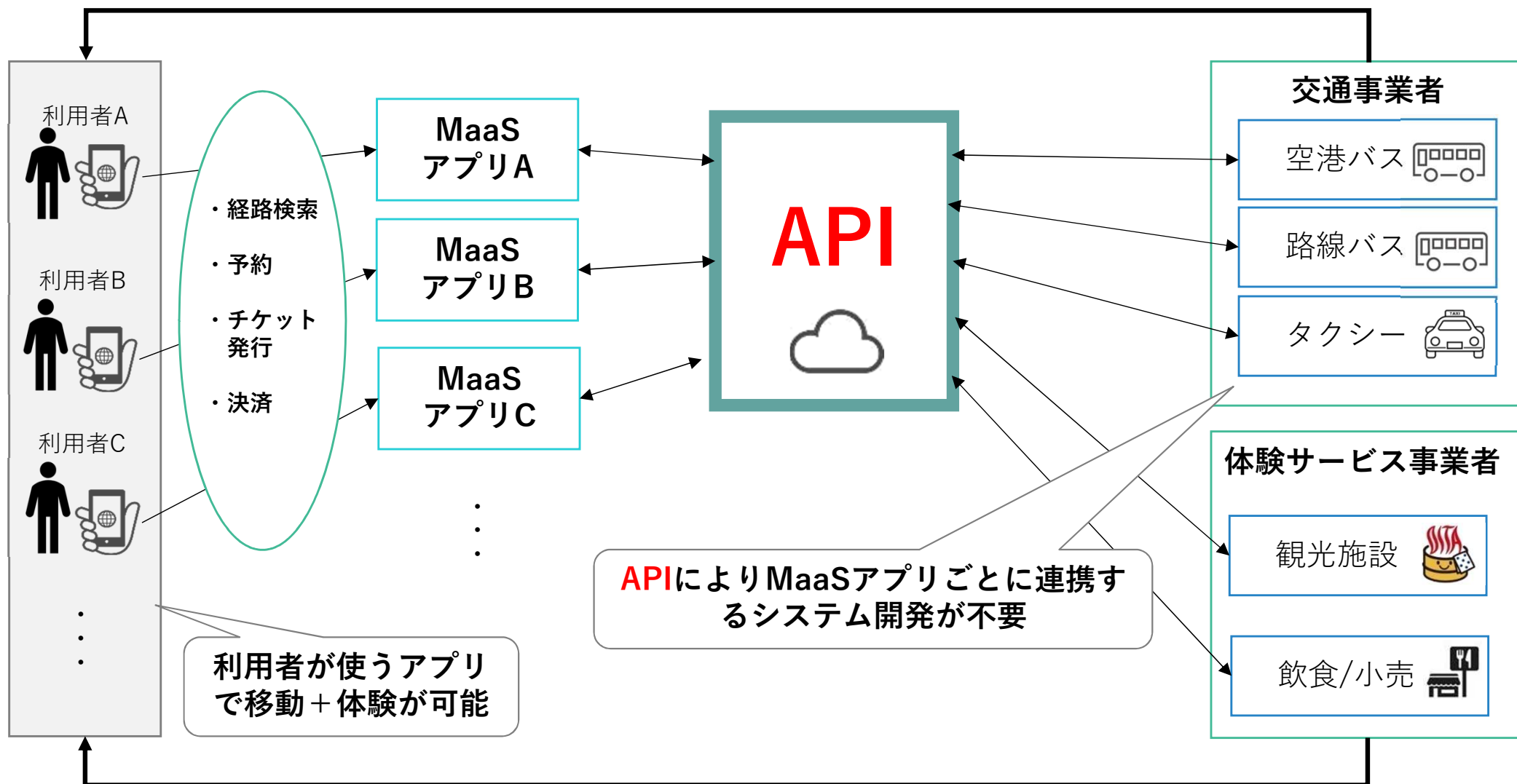
アプリと事業者が持っているデータを受け渡しするための変換器の役割

- (1) 利用者としては、使い慣れたアプリでの利用が可能
- (2) 事業者としては、APIへの接続のみで複数のアプリに対応でき、幅広いユーザーの取り込みが可能



APIシステム連携イメージについて

各交通事業者による輸送サービス提供



各体験サービス提供者によるサービス提供